

我等陸軍從業員は社会的経済上作業の憂、冬々一着づく貯蓄されることを要す

理 由

最近当局は職工の作業服の統制を計らんとして半ば強制的作業服の着用を強いてゐるのあります。わざと従業員然ニ青年工及時工は低賃金で屢々現れ、下院の均衡の強化をされてゐるのであります。而して当局の希望するが如き作業服を新調することとはわれわれの僅少なる收入を以つては、經濟生活上到底困難一あります。若し当局に於て陸軍労働者として作業服の統一を計るの必要あるならば一般従業員に夏冬一着貸与することが当然なりと信ずるものであります。同じ官業の鉄道従業員や市電氣局の従業員は皆支給又貸与されてゐるのであります。これ本案を提案した理由であります。

実行方法

一、官業労働總同盟の加盟団体と共力して目的達成に努力すること。

八、陸軍特殊休日日給全額支給の件

第一 支 部 提 宅
説 明 狹 周 興 吉

主 文

陸軍の特殊休日なる陸軍始、春秋靖國神社招魂祭の三日間は日給全額支給されんことを要求するものである。

理 由

陸軍に於ては一般祭日以外の特殊休日が一年に三日ある。即ち陸軍始と春秋の靖國神社招魂祭である。当日は陸軍の文武官は休暇を仰せ出されて休業するのであるが、獨り職工のみは普通休業となるは不合理極まると思ふのである。吾々従業員と雖も、名戦役には軍需品製造に従事し且つ公務に死傷して直接殉難に盡力してゐる。その功績又甚大なるものにして四大筋同様日給全額の支給は当然なりと信す。之本案を提出した理由である。

九、市井注文増加に依る廠内作業減少反対の件

各 支 部 联 合 提 案
説 明 陜 口 芳 松

主 文

一般従業員の收入を漸じ生活を不安ならしめる市井注文増加に依る廠内作業の減少に反対し非常時作業中は十二時間の作業、歩率五分以上の保障を期す。

理 由

最近大阪工廠に於ては廠外の仕事を出し過ぎて作業の減少を来たし従業員は不安を感じてゐる。われくは従業の如き長時間の労働は根本的には好むものではないが、最低賃銀制の如き制度のなき今日、インフレに依つて物價の騰貴しつゝあり生活は困難を感じる時作業減少に依る時間の短縮は直ちに收入減を招来し、生活を不安ならしめるものである。